Photo Space

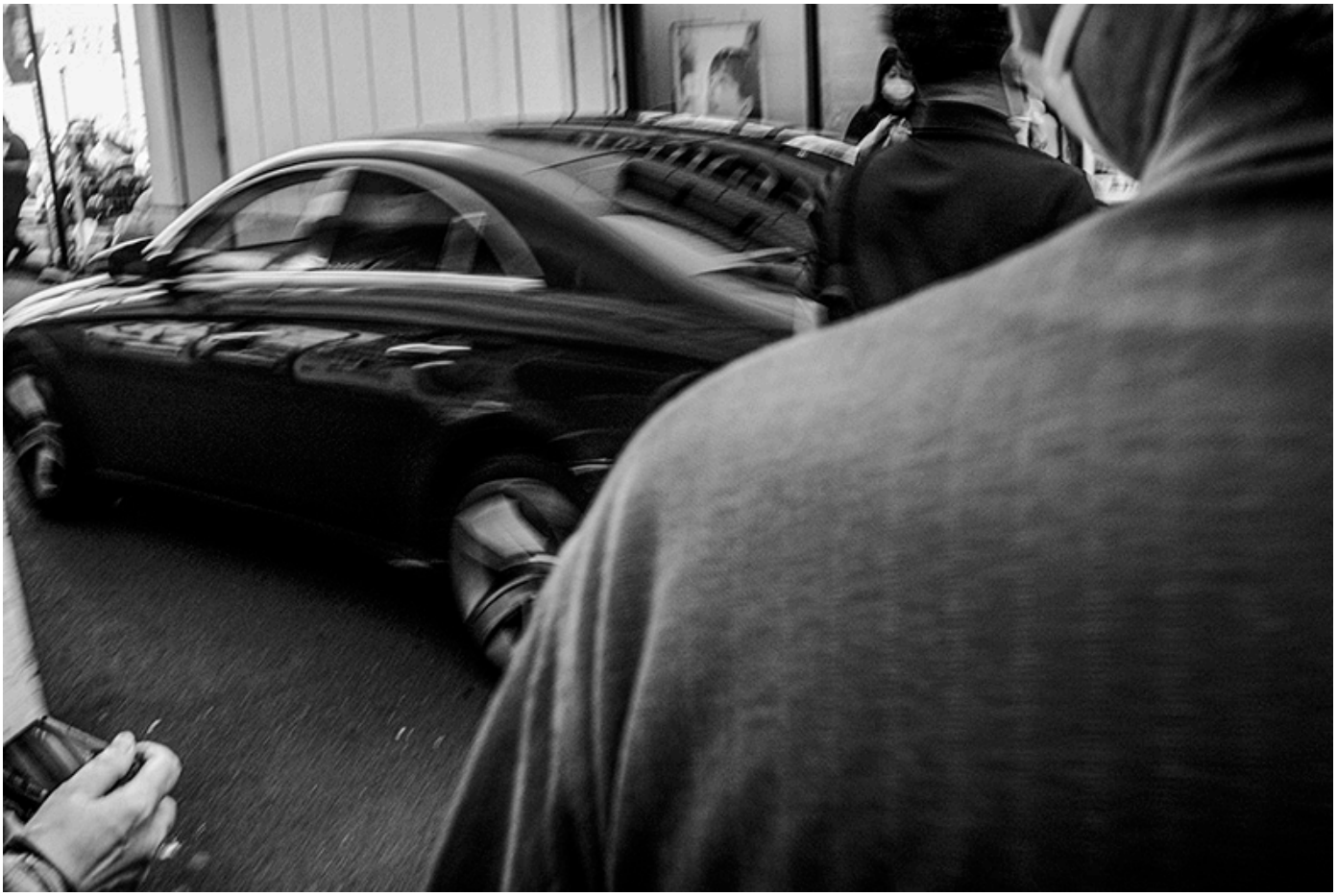
記録・創造・交流のための

ロゴデザイン：富樫茂美

Autume 2021 創刊号　2021.10.6 発行

現代写真研究所
〒160-0004
東京都新宿区四谷 3-12 ｻﾜﾉﾎﾞﾘﾋﾞﾙ 5.6F
03-3359-7611（TEL）03-3355-1462（fax）
http://www.genken.ac
jimukyoku@genken.ac
責任編集　金瀬 胖

禁無断掲載
許可なく作品の使用はしないでください。



黒のセダンが音もなく眼の前を通り抜けた　船橋　2021・7　©kanase

Photo Space 創刊の辞

「Photo Space」は現研「写真の広場」です。コロナのために、私たちの生活と写真活動は大きな制約をうけてきました。お互いの写真を見る機会も、話し合う機会も減り、まったく外出が出来ない人もいるので、現研の人が撮っている写真を見る、見せるためにもう一つの場所を作りました。

カメラのシャッターを切らないでいると反応力も視力もあまくなりそうで私は怖くなります。でも撮る現場はいくらでもあります。先日、私は自宅の近くでセミが死んで道に落ちているのを見つけました。何匹もの蟻が延々と列を作って小さな花弁を運んで死体の上に被せていました。それは発酵させるためかもしれませんが、カメラで覗くと埋葬の儀式のようでとても神秘的でずっと見ていて何枚も撮りました。小さな生物の営みに生と死の大なドラマを見せられた気がします。だから私はカメラを手放せないのです。

シャッターを切るとは一方的な行為と思われがちですが、たとえ静物でもかならず相手に響くものです（土門拳の『室生寺』を見るとよくわかります）。その反響が瞬時にカメラに還り像を結びます。つまり写真は撮り手と相手が生み出したもので、決してどちらか一方のものではないのです。Garry Winogrand は「見たことが写真で見るとどう見えるのかが問題だ」と言ったのはこのことではないか。いま写真の素晴らしさを確認し、クラス間の交流したいと思います。どうぞこの「写真の広場」をご活用ください。　　教務主任　金瀬胖

contents

金井ゼミ　2
入江ゼミ　3
尾辻ゼミ　4
土曜ゼミ　5
日曜撮影専科 6.7
オンラインワークショップ 8.9
飯塚ゼミ　10
写真総合科　11.12
モノクロフィルムワークショップ 12
・・・・・・・・・・・・・
写真集「雲南面影」から 13
「種のとき」から 14
写真展・写真集紹介 15

荒川一中前のおでん屋さん

スポーツセンター前（元東京スタジアム）

「また会いにきます」　三枝道夫

　コロナの前からマスク姿を撮るのが嫌いで、この一年撮影が進みませんでした。これではダメと思い直し、この数ヶ月、マスク姿でも「表情のある眼を！」とコロナ禍の街を記録するために歩き回り始めました。

　三ノ輪橋駅から北千住間で撮ったものです。今、個展を計画中です。

千住東町

event date　伊藤亨

オリンピック開催日（7月23日）、ノリで新宿まで行ってみた。ブルーインパルス狙いで「密」ができていた。参加することの意義よりは、感染拡大の「貢献」になったのかも。　撮影日…2021・7・23

原田敏朗 「屋久島の主たち」

標高 1,200 メートルの林道沿いで出会った「紀元杉」。厳粛な気分で推定樹齢 3,000 年の大木を見上げシャッターを切った。撮影　2021 年 7 月

「木更津」　潮田展子

木更津駅西口に近いみまち通りは、かつては通る人の肩が触れあうほどの賑やかな街でした。

今は閑散として人影もありません。写真は木更津総鎮守・八剱八幡神社の夏越しの大祓の日にご近所の粋な氏子を撮らせてもらいました。

「発酵する時間」より　生田一美

撮らずにいられない瞬間がある。二度と同じシーンは訪れる事がない。出かけたい思いにかられながら深く潜航したかのような１年半であった。これから私は街に出かける。変化を見届ける。静かに流れた時を感じつつシャッタを押す。発見する出会いに喜び、幸せを感じる。

「川越残映」 篠田明美

２０数年ぶりに訪れた小江戸川越。
観光客の賑わいをよそに、昔の面影を探し、裏みち・路地へと歩を進めた。

「River side ー木更津矢那川」 中澤ふみ子

「港街斜光」 とみた　やすよ

中心街の本屋

駅前の路上酒場　与三郎通り入口

息子が父親の頭をいじる　木更津港

「木更津　静かな午後」　金瀬胖

「マスクなしではだめですよ」 古澤　潔

「春」 長尾伸明

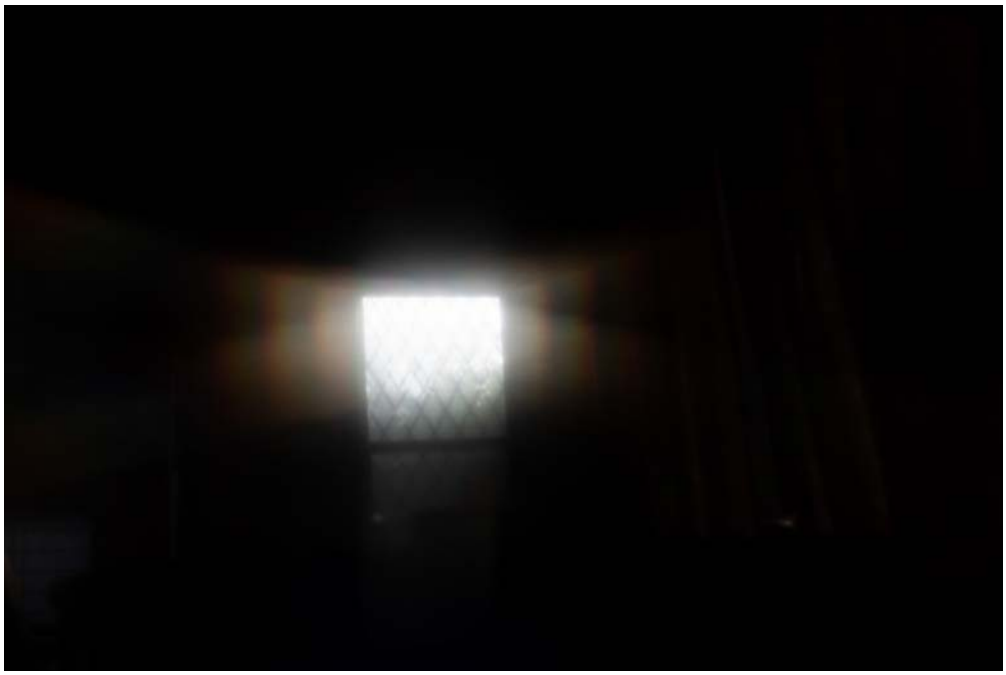
「ウォールストリート」 藤田篤男

上段「夏のお約束」 下段「繁る」　 鬼塚紀子

上段「コロナ禍の帰省」　下段「二人で稲刈り」　宮原咸太郎

「コロナ禍で」 谷口　亙

「東京ランブル」赤塚ほしよ
漂うように撮り歩いている。ほんのたまに、触覚に触れるものがある。こうした出会いの瞬間を何年経っても反芻している。

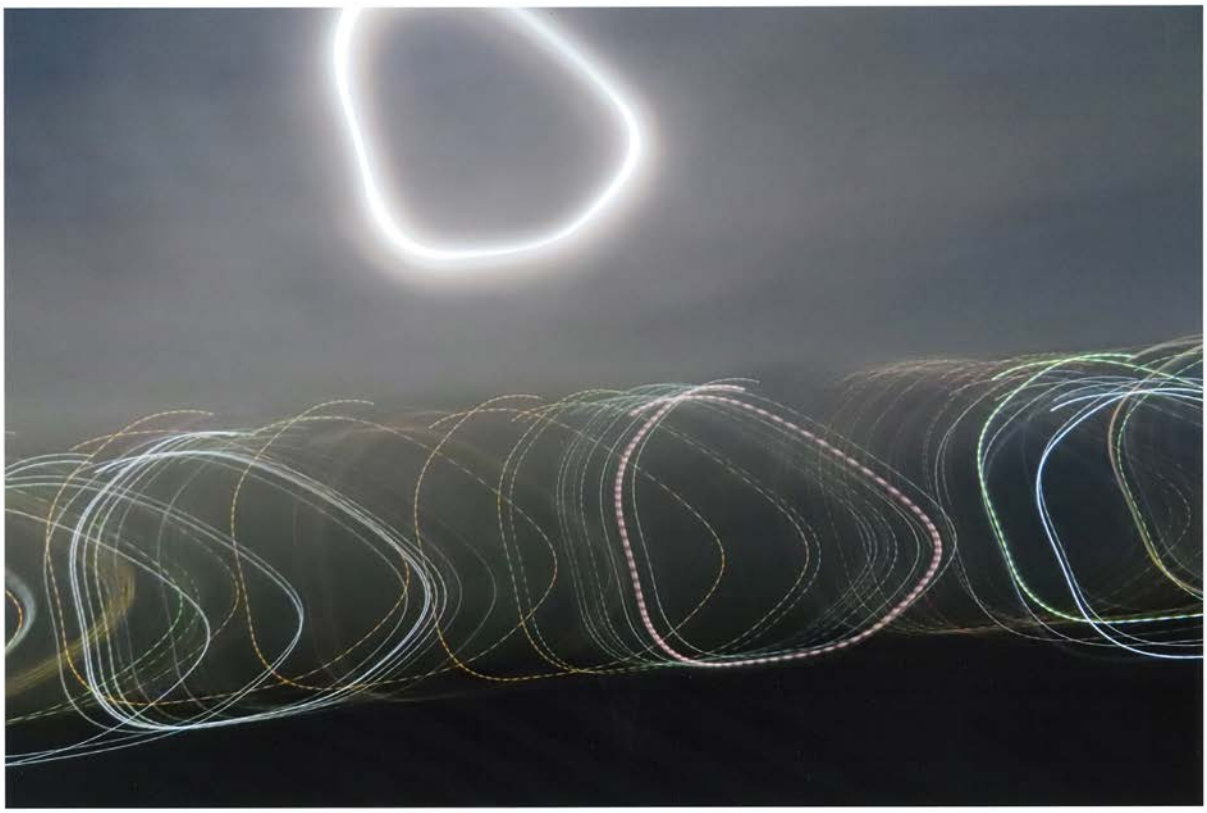


「私だけの時間」小野寺 紀幸

幼い頃から何かあると家 (うち) に閉じこもる習性がある。

今の時代なら何か病名でもつき そうだが、ともかく私はこうして自分を守ってきた。

雑音を排除した室内で、閉じ込めてきた傷と希望を記していきたい。



「中秋の名月」　栗原恭子　　写真総合科

満月の夜にベランダでカメラを振っていましたら、月と街の灯がこんなに写ってくれました。
街の灯というとチャップリンみたいでしょ。ちょっとひとりでおかしがっています。

「荒崎」 松田敏晴　　モノクロフィルムワークショップ

現在、現研階段ギャラリーで展示中

写真上　保山市・板橋村
写真左　四時如春　うたたねしていた老人

古屋行雄写真集『雲南面影』（2021 年 1 月現研出版局）

面影は、もう消えたといわれるもの、しかしまったく消え去ったのではない、痕跡や気配のようなものがあるということですが、写真の眼にはそれが明瞭に現れる、そこが重要なのだと思います。その現われ、面影に触れて撮る者は感動し、この不在感に満ちた世界に、生きるものが繋がりの手がかりを見出すのです。

古屋さんは雲南での出会いを重ねて、わたしたちが失いつつある人間生活の厚みや美しさに触れ、雲南－東京の面影を二重写しに見たのです。10 年たってもう一度本にするのは、雲南にも現代化の風が吹くときに、この面影の貴重さを再確認したからだと思います。　本書編集人・金瀬胖

阿部千佳子写真集『種のとき』

「中断していた写真をふたたび進めるきっかけになったのは、現研金瀬ゼミの写真集作りを見せてもらったことだった。捨てきれず押し込んだままの写真。すべてを見直す。その時の目の前のものとカメラと私をいまの私が見、晒され見られていた。長く使っていなかった押し入れ暗室で、印画紙にじわじわと現れたその子と目が合ったとき、なぜか泣いてしまった。
こんにちは。シャッターを切ったときとおなじ。たまたまかもしれないし探していたのかもしれない。待っていたのかもしれない。その子はいまも見ている。わたしではなく世界を。
種が一粒、膨らんだ殻の中から弾けて飛んだ。
通り過ぎようとして駆け寄る。ひとつだけ点いている街灯の下、しゃがんでいるのは、誰だろう。
道草していた時間の中にわたしの写真もあった。」
阿部千佳子　（本書あとがき）

あべちかこ
1999 ～ 2004 現研在籍
「種の時間」第 12 回酒田市土門拳文化賞奨励賞
写真展・コニカフォトプレミオ

写真集・写真展のご紹介

小倉隆人写真集
「ヨコスカ、工業地帯、足尾、東京湾
1970~2015 同時代を見つめて」
著者　小倉隆人
発行日　2021/5/28
発行所　HuRP 出版
制作　　NPO 法人 HuRP
定価　　1,760 円（税込）
A6 250p　モノクロ

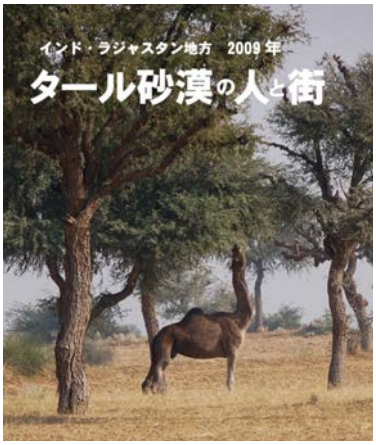
現研の講師を長くつとめた小倉さんが上京した 19 歳から 2015 年に徳島に帰郷するまでの 45 年間撮影をしてきた写真歴の集大成。

1970 年初め、ヨコスカを撮りながら「自分が生きている時代と同化した写真でありたいということ、この想いが次のテーマを決めるものになった」と記しています。

緊急事態宣言中、自粛を強いられるなか、10 年以上前の写真を見つめなおし、あたらしい発見をした高橋美保さん。おりしも同じ年 2009 年に初めて飯山を訪れた平山さんは、数年後からいくたびも飯山に通い、村と村人に流れる四季折々を撮影して写真集が出来上がりました。

平山謙写真集
「北信濃　飯山の四季」

著者　　平山謙
発行日　2021/7/27
発行所　信濃毎日新聞社出版部
定価　　2,750 円（税込）
B5 変形 144p　カラー



高橋美保写真集
「インド・ラジャスタン地方 2009 年
タール砂漠の人と街」

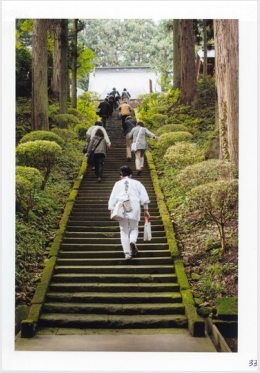
著者　　高橋美保
発行日　2021/9/1
発行所　瞬報社写真印刷㈱
制作　　高橋美保
定価　　2,000 円（税込）
AB 判　64p　カラー

予告・・・
英伸三所長公開特別講座を開催

日 時 11 月 23 日 午後 2 時～4 時
ZOOM による視聴、教室でのオフラインを予定しています。参加費は無料。

足立君江写真展
「東京の横丁　一本桜」
2021/9/30-10/6
アイデムフォトギャラリー「シリウス」

髙群美子写真展
「たぬきのひるねー京ろうじー」
2022/1/27-2/2
アイデムフォトギャラリー「シリウス」



山本やす子写真展
「霊地やまがた
ー最上三十三観音をたずねてー」
2021/12/15-1/13　　山形美術館

次号のお知らせ

現研交流誌「Photo Space」は、毎月発行。次号の原稿の締め切りは 10/30 です。10/4 に行われた「私の夏」コンテストの受賞作品をはじめ、現研生の作品をご紹介していきますので、どしどしご応募ください。

これからは、交流誌のなかで紹介した作品を、twitter や instagram、YouTube でもご紹介していきますので、フォローをお願いします。現代写真研究所で検索を！